

JUKI ミシン男子が今、アツい!!

Tシャツが作れる **メンズonly** の ワークショップに潜入しました

「集まれ! ミシン男子!」 ミシンメーカーJUKIが主催する、男性限定のワークショップがあると聞きつけ、取材に訪れた編集部。最新のロックミシンMO-2800を使ったメンズのビッグTシャツが完成するまでの悲喜こもごもをレポートします。

取材/石田由美 撮影/本間伸彦



流行の大きめシルエットでM、Lサイズ。1 肩を縫う 2 袖つけ 3 脇から袖下を縫う 4 衿つけ 5 袖口と裾の仕上げ 6 衿ステッチの工程。

男のビッグTシャツ



2 いきなり難関! 袖をつける<準備>



1 袖のつけ方をお手製の紙模型を使って解説。
2 3 4 開いた身ごろと袖カーブのノッチをクリップでとめる。「前後のノッチ間違えないでね〜」と指示が。ここまでやってお昼休憩に。

1 スピンドルテープを挟んで 肩を縫う

最初は肩。前・後ろ身ごろの肩線に、伸び止めの白いスピンドルテープを挟みながら縫う。縫う距離が短いため、参加者のみなさんはラクラククリアしている模様。



START!



まずは試し縫い



1 材料は裁断済み。2 縫いながら生地がカットされるロックミシンの特性に驚きつつ試し縫い。

ここでランチ休憩



JUKI本社の食堂でデザート付きの豪華ランチ。ちょっとホッとするととき

「ゴージャス!」

今回使ったミシン
MO-2800

イーゼスレッダー(自動ルーバー糸通し)、ひざ上げレバー装備のオーバーロックミシン。カーブがはずれにくい、静音設計など使いやすい工夫が満載。価格¥204600(税込み)。



講師
ヤナギナオミ先生
パタンナーに師事後、サンプル縫製・仕立て・服のお直しなど経て衣装製作の道に。今回は厳しくもあたたかい教え方で、全員完成に導く。

でも、初心者にとって、複雑なカーブを縫い合わせるのは至難の業。次々と縫いずれが発生し、ほどいては縫い直す……と心折れる場面も。しかし、果敢に挑み、5時間後には見事全員完成! Tシャツを手に満面の笑みを浮かべた6人からは充実感があふれていました。

「JUKIロックミシン『MO-2800』を使った『男のビッグTシャツ・マッチョTシャツセミナー』に集まったのは6名のメンズ。「山登りみたいで、できたときの達成感はずいよ」と先生が気持ちをアゲつつ、進行します。

2 いよいよ「差動」体験！袖をつける<本縫い>



いよいよ、ワークショップ中、最難関といえる袖つけ。なんたって、異なるカーブを縫い合わせるという、神業なのだ。先生のデモを見て各自ミシンに戻っていざ挑戦！が、縫い目がはずれる現象があちこちで勃発。縫い目をほどいてまた挑戦、とみんな前向き。

← さあ、やってみよう！



4 アイロンがキモ 衿をつける



1 形ができてきた本体に、フライスの衿をつける。2 これもアイロンがけが重要で、身ごろの衿ぐりの形に添うようにクセづけ。3 ぐるりと1周縫えば完成間近！

3 一気にTシャツの形に 脇から袖下を縫い合わせる



袖つけを無事に終えたら、次は脇線を縫う作業。その前に、袖口と裾を三つ折りにしてアイロンをかけておく。アイロンがけ自体、「ふだんはやらない」というが、みなさんスイスイと慣れた手つきに。成長の証し！

5 6 あとひと息！裾と袖口を仕上げ、衿ぐりにステッチ



1 ここからはカバーロックミシンと、職業用ミシンが登場。カバーロックでは裾と袖口を仕上げる。2 職業用ミシンでは衿ぐりに補強のステッチを入れる。3 4 あと一歩で完成のシーンでは、みんな応援。完成組はなんともいえない達成感を味わって、この表情！

GOAL!



6人全員完成!

開始から約5時間で見事に完成！「Lサイズのはずが生地を切りすぎてMサイズに」という笑い話も。